

ランビルヒルズ国立公園の陸産貝類相
細 将貴 (アジア・アフリカ地域研究研究科)

私は、陸産貝類とその捕食者であるセダカヘビ亜科のヘビとの相互作用をテーマに研究を進めている。その一環として、2004年4月20-30日の日程でランビルヒルズ国立公園に滞在し、陸産貝類の生態についての野外調査をおこなった。定量的な結果は得られなかったが、今回の調査で明らかになったランビルヒルズ国立公園の陸産貝類相とその特徴について報告する。

昼夜を問わないランダムサンプリングの結果、得られた陸産貝類は6属7種であった(表)。そのうち、前鰓類は3属4種、有肺類は3属3種であった。種ごとに特徴的な出現場所としては、*Schictoloma* sp., *Leptopoma fibula*, *L. muswareense*の3種がほとんど必ず樹上で発見され、他の4種はすべて地上で発見されたこと、また、*Tanychlamys* sp.が多くの場合、ベニタケ科のきのこを傘の裏側から摂食していたことがあげられる。出現頻度は、どの種においても総じて低かった。しかし一方で、*Bertia brookei*と*Dyakia mackensiana*は、ランビル滝からランビル山に向かう登山道の、コンクリートで舗装された階段上において夜間に高密度で出現していた。これらの状況は、土壌中のカルシウムの欠乏が公園内の陸産貝類の密度を低く抑えていることを示唆する。

表.

亜綱	科名	種名	生態	採集個体数	殻径 (mm)	巻き方向
前鰓類	アズキガイ科	<i>Schictoloma</i> sp.	樹上棲	>5	12	右
	ヤマタニシ科	<i>Leptopoma fibula</i>	樹上棲	2	20	右
		<i>L. muswareense</i>	樹上棲	3	13	右
		<i>Cyclophorus perdid borneensis</i>	地上棲	5	42	右
有肺類	カサマイマイ科	<i>Bertia brookei</i>	地上棲	3	70	左
	Dyakiidae	<i>Dyakia mackensiana</i>	地上棲	>15	40	左
	マラッカベッコウマイマイ科	<i>Tanychlamys</i> sp.	地上棲	>5	20	右

なお、農地付近でアフリカマイマイ *Achatina fulica* の死殻が見つかったが、生存は確認できなかった。正確な同定には、軟体部の解剖と記載論文との照合が必要だが、今回は標本の持ち出し許可を取らなかったため、種名は Abbott (1989) を参考に暫定的に決定した。殻径は、成貝の殻の最大幅のおよその値を示す。

私は、陸産貝類の捕食者であるセダカヘビ亜科の多くの種が右巻きのカタツムリの捕食に適応していることを、標本調査と行動実験から明らかにしつつある。また、殻口に蓋をもつ前鰓類は捕食されない可能性が指摘されている(大谷, 1983)。ところが公園内で発見された7種のうち、蓋をもたない有肺類は3種に過ぎず、そのうち右巻きのものは小型で出現頻度の高くない *T. sp.* のたった1種であった(表)。特に、全種を通してもっとも優占した *D. mackensiana* が左巻きであることは注目し得る。世界的に見るとカタツムリのほとんどの種は右巻きであり、ランビルヒルズ国立公園のように左巻きのカタツムリが優占する地域は稀であると考えられる。サラワク州ではセダカヘビ亜科のヘビが少なくとも4種は

記録されており (Stuebing and Inger, 1999), ランビルヒルズ国立公園内でも採集記録がある (疋田努, 私信). 公園内において, それらがどのカタツムリをどのように捕食しているのかが非常に興味深い.

この調査の遂行にあたり, 同時期にタミジハウスに滞在していたプロジェクトメンバーの皆様には多大な協力と温かい励ましをいただいた. この場を借りて感謝申し上げる.

Abbott, R. T. 1989. Compendium of Landshells. American Malacologists, Burlington.

大谷 勉 1983. イワサキセダカヘビ (*Pareas iwasakii*) の一採集例と飼育下におけるマイマイの捕食について. AKAMATA. 1:8-11.

Stuebing, R. B., and R. F. Inger. 1999. A Field Guide to the Snakes of Borneo. National History Publications (Borneo), Kota Kinabalu.